

空欄の箇所は、その単位時間に重点をかけて指導する観点であるとともに、評価する観点となる。

上記例 [表1] の場合

- ・運動への関心・意欲・態度 3 / 6 時間
- ・運動に関する思考・判断 2 / 6 時間
- ・運動の技能 4 / 6 時間
- ・運動の知識・理解 1 / 6 時間

一人一人の学習状況に応じて指導する

授業中は、助言・補助・安全等の指導に徹し、生徒に寄り添う。

すべての生徒が「おおむね満足できる」状況に達することができるよう、特に指導・援助を要する生徒への個別指導を充実させる。

記録をするために、補助簿を持って動き回るようなことは好ましくない。

評価資料の整理・集計をする

授業終了時に「おおむね満足できる」状況より質的に高い児童についてはA ()、「おおむね満足できる」状況に至らない児童についてC ()を教師用補助簿に記入する。[表2]

特に記述すべき事実があった場合は、その時間の重点(観点)となっていなくても、メモしておく。([表2] 網掛け内のコメント)

授業終了後あるいは単元終了後に、個人カードやグループカードを参考に加筆・修正を加える。

「記録後の教師用補助簿(例)」<単元別学級一覧表> 中学校1年生 水泳

[表2]

時間		1	2	3	4	5	6	計
重点とする観点 名前		関・意・態	思考・判断 技 能	技 能	関・意・態 知識・理解	思考・判断 技 能	関・意・態 技 能	
1	関・意・態	A			A		A	A
	思考・判断		A	課題設定		A		A
	技 能			A				B
	知識・理解							B
2	関・意・態	C	ふざげ注意					B
	思考・判断							B
	技 能		C	C	伸び姿勢		C	C
	知識・理解							B
4	関・意・態				A		A	A
	思考・判断		A			A		A
	技 能			A		A	A	A
	知識・理解				A			A

* 空欄は「おおむね満足できる」状況で、「B」を示す

メモした内容は、その後の指導に生かすとともに、生徒の成長の過程を評価する個人内評価と合わせて、特に目立った児童について通信簿や指導要録の所見欄に記述し、認め価値付ける事実としたい。

(2) 学期末における観点ごとの評価の総括

年間単元配列表が下記のような場合（中学校1年生）

[表3]

単元	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	計
領域名 (指導時間)		・体づくり運動(6) ・陸上競技(12) ・水泳(6) ・器械運動(5) ・心身の機能の発達と心 の健康(4)				・水泳(3) ・球技A(12) ・球技B(12) ・心身の機能の発達と心 の健康(5)				・器械運動(9) ・体づくり運動(3) ・武道及びダンス (10) ・心身の機能の発達と 心の健康(3)			
計		33時間				32時間				25時間			90時間

観点別得点の集計から評定を行う
 「観点別評価及び評定簿 1学期(例)」 ↓ ~岐阜太郎さんの場合~

名前		単元 観点	体づく り運動	陸上競 技	水 泳	器 械 運 動	心身の 機能	観 点 別 の 総 括
1	関・意・態		A	A	A	A	B	A
	思考・判断		A	B	B	B	B	B
	技 能		/	A	B	B	/	B
	知識・理解		B	A	B	B	B	B

2 観点別学習状況の評価から評定への総括

(1) 基本的な考え方

評定は、学習指導要領に示す体育科の目標に照らして学習の実現状況を総合的に評価するものである。観点別学習状況の各観点は、学習指導要領に示す体育科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価は、評定を行う場合において基本的な要素となるものである。この両者の関係を前提とすると、観点別学習状況の評価結果を総括していけば、観点別学習状況の評価と評定が以下のような対応関係にあることが理解できる。

観点別学習状況の評価		評定	
十分満足できる	A	特に程度の高いもの 十分満足できる	5 4
おおむね満足できる	B	おおむね満足できる	3
努力を要する	C	努力を要する 一層努力を要する	2 1

「関心・意欲・態度」	「思考・判断」	「技能」	「知識・理解」	「評定」
A	A	A	A	「4」又は「5」
B	B	B	B	「3」
C	C	C	C	「2」又は「1」

上記の場合を除き、各観点ごとのABCが決まれば評定も必然的に決まるものではなく、様々な組合せが考えられる。同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれの評価結果が示す実現状況には幅があり、日常観察や各単元の評価の積み上げから総合的に判断する。

(2) 学年末における観点ごとの総括と評定への総括

学期末の観点ごとの評価の総括（通信簿等への生かし方を含む）

< 岐阜太郎さんの場合 >

名前 観点		単元	体づくり運動	陸上競技	水泳	器械運動	心身の機能	観点別の総括	通信簿等
1	岐阜太郎	関・意・態	A	A	A	A	B	A	3
		思考・判断	A	B	B	B	B	B	
		技能		A	B	B		B	
		知識・理解	B	A	B	B	B	B	

各学期毎に集計をした結果について、年間の総括をする。

< 岐阜太郎さんの場合 >

名前 観点		領域	器械運動 (9時間)	体づくり運動 (3時間)	ダンス (10時間)	心身の機能の発達 (3時間)	観点別の総括	通信簿等
		領域	水泳 (3時間)	球技A (12時間)	球技B (12時間)	心身の機能の発達 (5時間)	観点別の総括	通信簿等
		名前 観点						
		領域	体づくり運動 (6時間)	陸上競技 (12時間)	水泳 (6時間)	器械運動 (5時間)	観点別の総括	通信簿等
		名前 観点						
1	岐阜太郎	関・意・態					略	
		思考・判断						
		技能						
		知識・理解						



名前 観点		学期	1学期	2学期	3学期	観点別の総括	評定
1	岐阜太郎	関・意・態	A	A	A	A	4
		思考・判断	B	A	A	A	
		技能	B	A	A	A	
		知識・理解	B	A	A	A	

